

SAH × 勉強 中学校と高校の勉強の違い

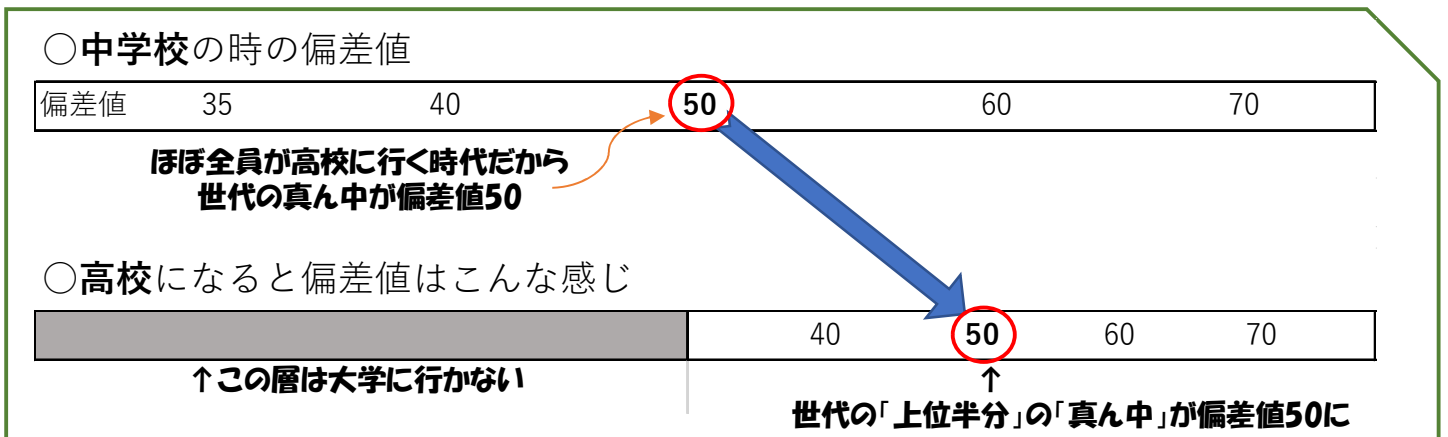
1年生は高校での授業が始まり、高校で初めての定期考査が終わりました。どうでしたか？こんなもんかと思っている人、進度が速い、難しいと感じている人もいるでしょうか。今号では、中学校と高校の勉強の違いをまとめ、どのような意識で授業や勉強、課題に取り組むべきかを理解してもらうことをねらいます。(編集 教頭)

1. 中学校と高校での偏差値 50 は同じ？



結論から言うと違います。高校の偏差値 50の方が高いです。

昨年度の高校3年生世代は約100万超え。そのうち大学入試の共通テストを受けた高校生は50万人弱。つまり、大学受験をするのは、ざっくりですが、上位半分の50万人弱。偏差値50というのはその母体の真ん中になるわけですから、高校の偏差値50というのは下図のように中学の時の偏差値50と比べて(学力)が高いということがわかります。これを頭に入れて偏差値ランキング表を見てみましょう。



2. 内容量 (範囲)

私は【右絵】のように例えて説明します。教科書を見せて「これが中学校の範囲」、黒板全部が「高校の範囲」。中学校の時8割ぐらいできていたからそのやり方でやればいいと思っている生徒が、高校でつまずく(ついていけない)のはこういうことです。まずは「覚えるべき量が(圧倒的に)違う(多い)」「応用問題の範囲が中学校と比べて格段に広く高い(範囲まで出せる)」のが高校というところ。だから授業進度も速くなる。覚えるべき量を覚えてそれを使って応用問題や論述問題を解き、英作文を書けるようにならないといけないから。



3. 今の授業で学んでいることや課題を、なんのためにやっ

ているか「意識化」せよ

英語でなぜたくさんの単語と文法を覚える必要があるのか。古文はなぜ古文単語と文法を覚えるのか。

漢文で句法を徹底的にやるのはなぜなのか。数学で「例題」をやった後なぜ多くの問題を解くのか。

何も考えず知らないでただただやる（やらされる）だけなら、それは「苦行」だよね。やはり、なんのためにやっているのかを自分の頭で考えて、自分に落とし込んで取り組んでほしい。



今の学びが、将来、何につながるか

英語・国語で語りましょう。大きなことを言えば、英文や古文の世界を理解するため、読めることにより世界が広がり相手や文化への理解と関心が深まります。単語＝言葉を知っているということは、自分のことが相手により正しく伝わり（自分の思いを言語化できる）、相手の思いもより理解できることにつながります。シンプルにコミュニケーション能力の向上につながるわけです。

大学受験という中期的な目標で考えたら？

中期的な目標に視点を下げて話をしましょう。それは「大学受験」です。大学受験の国語、英語のリーディングは長文を読んで答える、つまり「長文読解」です。「読解」とは正しく読んで解く。「初めて出会った（初見の）文章を読解するためには何かが必要ですか？」と生徒に聞くと、ほとんどの生徒が同じ答え、正解を答えます。「単語」と「文法」（読み解くルール）です、と。こちらは「そうだよね、単語知らなきゃ読めないよね、文法を知らないと正しく訳せないよね」と返答します。

古文 行かぬ / 行きぬ の違い

例えば、古文で助動詞「ぬ」が出てきた場合、文法を知っていれば全く意味が違って、“行かぬ” “行きぬ” の2文もそれぞれしっかり訳すことができるはず【答え・解説は次ページ!】。

英語 that 「あれ」という意味だけでないことを知っているか？

中学で that は「あれは、あの」、関係代名詞の「that」、It is...that という形式主語の「真主語」を表す「that」を習ったはず。高校では、「同格」、「強調構文」で使う「that」まである。これを理解し、英文で出てきたら「これこれこうだから、関係代名詞の that だ」と解釈して読解していくわけだ。

◎まとめ～「読解」の観点で考えると、英語・古文・漢文は同じ学び方なんだ!

単語や文法（漢文でいう「句法」）は、**初めて出会う長文を正しく読む（読解）するための**

アイテムなんだ。だから、それを自分の中（脳）に入れて使えるようにしなきゃなわけ。1日や1週間で覚えられる量ではない。単語や文法を覚える、継続的に、そしてそれを理解して使えるようにする。

虎の巻 進路面談の場面で生徒に話す「古文・漢文の学習法」

【2ページの解答・解説】

古文 行かぬ / 行きぬ の違い

一見するとどちらも「行く」に「ぬ」がついているように見えますが、直前の音が「か（未然形）」か「き（連用形）」かで、結果（意味）が真逆になります。

パターン	文法構造	正しい現代語訳
行かぬ	行か（「行く」の未然形）＋ぬ（打消）	行かない
行きぬ	行き（「行く」の連用形）＋ぬ（完了）	行ってしまった

これ、文法を知らないで読むと、雰囲気を読もうとするからどっちとも「行かない」と訳して読んでしまうんだよね。大学入試の出題者が「落とす試験」を作るとしたら、「行きぬ」の方を出して、勉強していない層を落とそうとする、まで深読みできるわけですが。

コラム 古文は「小英語」（受験の話）

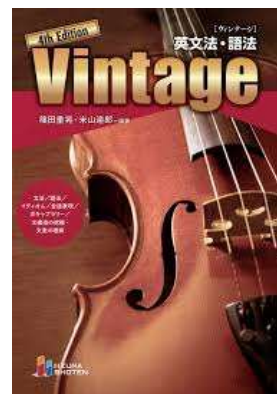
本質は違うかもしれない、国語の先生方すいませんと自覚しながら、文にします。進路の面談で生徒にアドバイスをするとき、「古文」は“小さい英語”だね」とよく話していました。前ページ



で書いたように、初めて出会う長文を「正しく読む」（読解する）には、単語と文法というアイテムを入れてそれを駆使して読み解く、そうすれば必ずと正しく読めて、得点につながるわけです。だから、せっかく勉強するならば（第一志望の大学に合格したいならば）、受験で必要とされている単語と文法を覚えて使えるようにするのが進路実現に向けた大きな一歩になるわけだね。

それでは、「古文は小英語」の話をします。面談で「英単語はいくつ覚える（必要な）の？」と聞くと、『ターゲット1900』という単語帳をイメージして「2000語くらいです」と生徒は答えます。古文単語は？と聞くと「300語くらい」と答えます。「なんで英単語と比べて少ないのかね？」と聞くと、生徒はみんな答えられません。頑張って出てくるのは「昔の人は言葉が少なかったから??」みたいな答え（かわいいですね）。答えに向けて誘導の質問をしていきます。こちらが『高し』という古文単語の意味は？と聞くと、『高い』です」と答えます。「それ試験出る（で問われる）？出ないよね？なんで？」

と聞くと、「簡単だからです。同じ意味だからです。」と答えてくれます。「じゃあ、『あはれ』は試験に出る？」と聞くと、「出ます」と答えます。なんでと聞くと「……大事だから?…」と答える子が多いです。私から、『あはれ』って現代では『哀れ=かわいそう』って意味だよ、でも昔（古文）では『かなしいなあ』という同じような意味もありますが、『趣があるなあ』『愛おしいなあ』という意味で使われるよね、つまり、今と昔で“意味が違う”言葉なんだよね、だから、テストに出るんだよ、出題者は出したんだよと話をします。こうなるとピンと来る生徒は「なるほど!」という顔をしてきます。続いて、『かたはらいたし』って試験に出るよね?なんで?今では使わないよね、使っても『お笑いぐさだ』という意味だよ、昔は『気が引ける、恥ずかしい』『きまずい、はずかしい』という意味。つまり、今では使われないが昔使っていた単語は出るってことと話をすると、生徒はなるほどなるほどと深くうなずいてくれます。「つまり、古文単語が300語くらいなのは、今も同じ意味の言葉は覚える必要はないしテストにも出ない。今と違う言葉、今は使われていない言葉が300語ということなんだよ。しかも、英単語と違って“単語の意味”も試験で聞かれる（覚えたら点になる）。そう考えると、英単語1900語と比べて古文単語は覚える数は少なくて済む、かつ意味が試験でダイレクトに聞かれる、古典文法も英語の文法参考書『VINTAGE』の厚さと比べたらとても少ないよね。助動詞、敬語というヤマを超えれば読むためのアイテムの入力は完了する。つまり、読むためのアイテムの単語と文法は英語よりも早く入力できる。古文は一石三鳥、四鳥な科目なんだよ。漢文も参考書『漢文ヤマのヤマ』をやれば読み方のインプットは終了だ。“国語が安定しない”と結構な数の受験生が言うけれど、古文・漢文を早々にマスターすれば国語は安定するし成績が上がるよ、しかも短期間で。コスパがいいんだよ」と伝えます。「国語は何を勉強したらいいかわからない」「国語は日本語だから勉強しなくてもいいんじゃないか」と思っている層が、一気に「国語で何を勉強すればいいか」を理解し国語を得点源にする生徒に変わっていきます。



“古文は「小英語」というフレーズは、このような話をするときに使います。



3年生になったら、文系は社会科目、理系は数学Ⅲや専門理科と重たい科目に時間を割かなければなりません。だからこそ、1,2年まで（できれば2年夏まで）に、国語の「読むためのアイテム」を入力できれば、かなりのアドバンテージになります（現代文の話もしたいなあ）。

裏返すと、英語は、英語こそ、1年生のうちからコツコツやりたいということがわかりますね。文理問わず必要、そしてこなす「量」だけでなく、大学入試の配点の比率の高さが「英語」と心得よ！